

在宅リハサービス導入の判断に悩む利用者（要支援～要介護3） に対し、本ツールを活用しましょう

STEP 1 「生活行為の変化を捉えるシート」の活用

1 シートに記入してみよう

新規の利用者

- ①現在のADLの状態を記入する
- ②1か月後を目処に、ADLの状態を記入する

継続支援中の利用者

- ①以前（直近）、訪問した時のADLの状態を記入する
- ②現在のADLの状態を記入する

2 シートに記入した結果判定

①と②を比較して、1つでも低下したADLが

「ある」

速やかに在宅リハサービスの導入を検討しましょう

「ない」

早急な在宅リハサービスの検討は要しません

STEP 2 「生活行為の「低下の原因」・「低下の兆し」を捉えるチェックリスト」の活用

1 チェックリストに記入してみよう

STEP 1 の結果、ADLの低下が「ある」場合 ⇒ ADLの低下に至った「原因」を捉えましょう

STEP 1 の結果、ADLの低下が「ない」場合 ⇒ これからADLの低下に至るかもしれない「兆し」を捉えましょう

2 チェックリストの結果判定

「✓」または「◎」がついた

それぞれの項目への対策を講じましょう

「✓」がつかない

早急なサービスの検討は要ませんが
毎月の定期的なモニタリング訪問の際に
再度本ツールを活用することをおすすめします

STEP 3 「総評」の活用

STEP 1・2の結果、利用者・介護支援専門員の意向を踏まえ、総合的な支援方針を記入し、利用者本人や家族、サービス提供者との情報共有に活用しましょう。また、利用者の状態の変化が生じた時には、再度ツールを活用してみましょう